

# チャペル週報

しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。

(使徒言行録 14:17)



2007.11.26 ~ 11.30 No.20  
関西学院宗教センター

---

## チャペル・スケジュール

---

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

---

11月26日(月) 神 堤 紗恵子(神4)

経 舟 木 讓(宗教主事)

---

11月27日(火) 院 窪 寺 俊 之(神学部教授)

神 永 倉 直 嗣(M2)

文 田 淵 結(宗教主事)

社 音楽チャペル ゴスペルクワイア Power Of Voice

法 音楽チャペル 関西学院ハンドベルクワイア

経 人間を考える 杉 山 直 人(経済学部教授)

商 中 道 基 夫(宗教主事代行)

総 「私と建学の精神・・・矢内正一先生と私」岡 國太郎(千刈キャンパス事務長)

---

11月28日(水) 神 キリスト教音楽に触れよう 水 野 隆 一(神学部教授)

社 共に生きる 山 野 仁 美(寝屋川市民助け合いの会スタッフ)

法 Christian Morimoto Hermansen(宣教師)

経 人間を考える 加 藤 和 孝(経済学部教授)

商 音楽チャペル ゴスペルクワイア Power Of Voice

理 「イスラエル・聖地の旅」映像に学ぶ礼拝

総 Yuri Adrian Tijerino(総合政策学部准教授)

---

11月29日(木) 神 福 万 広 信(初等部宗教主事予定者)

文 音楽チャペル 関西学院ハンドベルクワイア

法 栗 林 輝 夫(宗教主事)

経 人間を考える 藤 原 憲 二(経済学部専任講師)

商 English Chapel Richard Stinson(宣教師)

総 Kwansei Gakuin Blessed Choir

---

11月30日(金) 上ヶ原キャンパス

アドベント学部合同チャペル 於：中央講堂

理 「祈りについて」北 村 泰 彦(理工学部教授)

---

ランパス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20~8:40 於：ランパス記念礼拝堂(上ヶ原)

11月30日(金) アドベント(12/2)を迎える

神 田 健 次

総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40~ 於：宗教主事室

---

# 「ベツレヘム」

向 井 考 史

冬の、冷たく澄んだ空気の夕方になると、必ず思い起こす匂いがある。私は1973年から約3年間、最初の留学生生活をSMUで送った。春から秋にかけてのメキシコ湾からの熱い空気が、12月の中旬に北からの冷たい空気に変わって突然寒くなると、風のない冷たく澄んだ日の夕方、家々の暖炉の煙の匂いに混じって、パンを焼く香ばしい香りが漂ってくる。大学のすぐ近くにMrs. Baird's という大きなパン工場があるからである。暖炉で炊く薪とパンを焼く香ばしい香りの入り混じった匂いは、異国の地で一人アドヴェントの時を過ごす私にとっては、郷愁を駆り立てられる匂いであった。

イエス・キリストがお生まれになった「ベツレヘム」は、'ベート('家)どレヘム'(パン)の組み合わせであり、「パンの家」という意味である。このベツレヘムに一人の若者が住んでいた、と士師記17章は語る。彼がレビ人であったと紹介されているゆえ、この若者は25歳くらいの若い祭司であったのであろう。

どういう訳か、この若い祭司は、ベツレヘムが自分の住むべきところではないと考え、「住むべきところを尋ねて」旅に出た。若者が何故、ベツレヘムを自分の住むべきところではないと考えて旅に出たのか、その理由は記されていないが、推測するヒントは与えられている。「町」という言葉がベツレヘムに付けられていることである。

旧約聖書の中では「町」は、人間の欲望や醜悪さが集中的に現れる所として描かれている。ソドムやゴモラがその代表例である。もしかすると若者は、その町で見る人間の欲望や醜悪さに耐えられなかったのかも知れない。あるいは、町に現れる人間の醜悪さが、自らの中にもあることに気付いて、祭司という職務にふさわしくない自分に絶望したのかも知れない。彼は「住むべきところを尋ねて」旅に出た。それは新たな自分探しの旅であったと言っても良い。

新約聖書は、若者が見捨てた町「ベツレヘム」の、しかもみすぼらしい馬小屋の中で、救い主イエス・キリストが生まれたと告げている。人の世の醜悪さの中に、飼葉桶に象徴される貧しさや惨さの中に、キリストは生まれた。そして、私達自身の中にある醜悪さ、惨さ、貧しさの中にも、キリストは生まれているのである。

(神学部教授)

今世界の「人権」を考えるフィルムセッション第5回(2007年度第2回)

テーマ:「収容所」という暴力の現実 - 「キャンプ」の過去 / 記憶 / 現在 -  
『絹の繭から - 日系米人国籍離脱の物語』(サツキ・イナ監督作品)を観る

トーカー: 田中きく代(文学部)、山本剛郎(社会学部)

ナビゲータ: 阿部 潔(社会学部)

と き: 11月26日(月)15:15 ~ 18:30

ところ: 図書館ホール

主 催: 関西学院大学人権教育研究室(吉岡記念館企画)

概 要: 第二次世界大戦時に「日系米人」がキャンプに収容されたことは、現在では広く知られている。だが、その過程とその後において、どのような辛苦を人々が味わったのかを、わたしたちはどれほど知っているだろうか。今回のフィルムセッションでは、日系人収容所を題材としたドキュメンタリー・フィルムを見ることを通して、「キャンプ」の過去 / 記憶 / 現在について考える機会を設ける。

お問い合わせ: 関西学院大学人権教育研究室

#### CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務局宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務局までお越しください。

使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協会(JOCS)切手部の活動に協力し使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

#### 大阪梅田キャンパスチャペルアワー

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎月第2水曜・第4金曜にチャペルアワーを開催しています。

11/30(金)18:00~18:20 1405教室

【メッセージ】水曜日 樋口 進(宗教センター宗教主事)

金曜日 田淵 結(大学宗教主事)

#### 関西学院会館の日曜礼拝

毎月第二・第四日曜日(午前10時~11時)関西学院会館ベーツチャペルで教職員・学生有志による礼拝が行われます。一部英語を用いるバイリンガルの形式。どなたでも参加出来ますのでどうぞお越しください。

12月9日